



上信国境の沢を代表する美溪

上信国境 魚野川庄九郎沢下降～本流

棚橋

【日時】 2011年9月23日(金)～25日(日)

【メンバー】 L佐貫、佐藤(里)、坂村、棚橋

今シーズンは長期に渡る故障のため、ようやく5本目の泊まりの遡行である。ここ魚野川は、美しさは裏切らないだろうが、標高が高いことに加えて寒気の流入による冷え込みが気になるところである。

9月23日 曇り

今日は岩菅山の避難小屋までとしたので、仮眠地より一ノ瀬スキー方面へと移動し、それから登山道にてコースタイム3時間半の行程である。途中、何名かの登山者とすれ違ったが、皆様に軽装である。それに対し2泊分の装備を持った我々は「どこまで行くの?」と言われそうな感じだ。それでも何とか雨にも降られることなく岩菅山に着いた。

小屋は綺麗な上、ストーブもあり、快適であった。皆が持ち寄った充実つまみと坂村さんのおいしい食事を頂き、暗くなる頃には寝てしまった。

9月24日 晴れ

小屋のおかげで雨も風も気にせず、安眠できた。外はガスっているが、天気予報は好天を告げており、早々に出発する。ノッキリまで移動した後、庄九郎沢へ下降を開始する。上部は平坦且つ濃い目の笹藪だったが、方向を定めて進んでいくと沢形がだんだんと顕著になってきた。途中、紐のようなものが張り巡らされていて、何だろうと思っていると今度は釣り屋さんの物ではないかと思われるザックが現れ、緊張が走る。しかし結局何も無くホッとする。庄九郎沢の下降は一回だけ懸垂下降をしたが、他に問題になるところはなかった。

本流には圧倒的なナメで出会う。美しい溪相だ。ただし水量が多いように感じられたので、より安全なルート取りで進んで行こうと考えた。幅広滝6*10m、大釜を持つ



庄九郎沢の下降

6*10m滝と、美しいナメ系の滝を越えると大水量の15m滝が現れる。ここは左岸から巻くことにする。下部はガレているので一人ずつ通過したが、途中からはしっかりと踏み跡がつけられていた。小平沢を過ぎると水量の減少が感じられ、そこから屈曲を繰り返す。そして到着した南ノ沢出合は、想定以上の幕場適地であった。まだ時間が少々早いので、予定通りここに泊まることにした。苦勞して大量の薪を集めたのにも関わらず着火できず、散々粘った後ツエルトに逃げ込むことになった。その後、男性3人パーティがやってきたので少し話しをしたが、彼らは南ノ沢を詰めるとのことで、更に進んで行った。

9月25日 晴れ

今朝も冷え込んだ。しかし靴が凍るほどではなかった。北ノ沢を進むと先ず、4m滝が現れる。使用しなかったが、トラロープがフィックスされていた。その後、左岸側から10mクラスの滝が掛かるのを見送りながら進む。この辺りまで来ると、水量も大分少なくなってきた。

当初、詰めようと考えていた沢はやや藪っぼいので、その先の標高1790mの二俣を右に詰めることにする。多段10m滝を登り、右の支流を見送ると3m滝があり、少し進むと笹藪突入となる。庄九郎沢の源頭位をイメージしていたが、それよりは遥かに楽に進めた。ゆっくりペースで1時間ほど頑張ると、稜線の登山道に出た。あとは金山沢ノ頭、寺子屋峰経由で東館山へと進むと清々しい高原に迎えられた。



本流はナメ系の溪相

そして高天ヶ原サマーリフトに乗って下山。あっという間に車の待つ一ノ瀬へと戻ることができた。

足の不具合を癒している間に私の好きな「夏の沢」から完全に「秋の沢」に変わっており、紅葉にはまだ早かったが今年の沢シーズンも終盤に差し掛かっていることが感じられた。

今回の魚野川は上部のみの遡行であったので、悪場の少ないきれいな沢という印象であったが、もっと下部から遡行し



滝場の通過



たら違った顔が見られるのだろう。

【行程】

- 9/23 岩菅山登山口(9:00)～岩菅山避難小屋C 1(12:35)
- 9/24 C 1(6:10)～ノッキリ(6:30/40)～魚野川本流出合(10:15/25)～南ノ沢出合C 2(13:25)
- 9/25 C 2(6:49)～稜線(10:15)～金山沢ノ頭～東館山(11:40)

【地図】 岩菅山

